

(仮称) 熱海文学館
基本計画

令和5年3月

熱 海 市

目次

I 本計画における検討課題	1
II 施設全体計画	
1. (仮称)熱海文学館の基本的な考え方	2
2. 基本方針	6
3. 機能	8
4. 事業計画	9
III 施設整備の方針	
1. 施設構成	12
2. 内装デザイン視点によるコア施設(旧杉本邸)の建築改修想定箇所	13
3. コア施設(旧杉本邸)の改修に関して	15
4. 収蔵庫の設置	17
IV 展示計画	
1. 展示の基本的な考え方	18
2. 展示ストーリー及び展示構成	22
3. 諸室利用計画とゾーニング	23

V 管理運営計画(案)

1. 基本方針	24
2. 管理運営体制	25

VI 事業スケジュール	26
-------------	----

資料編

I 本計画における検討課題

本計画は、令和元年度作成の「(仮称)熱海文学館 基本構想」(以降「基本構想」)で挙げた検討課題について、(仮称)熱海文学館が果たすべき役割と目指す姿を検討することが趣旨です。

- ① 熱海ゆかりの文学と杉本氏の業績を顕彰する
- ② 文学館としての具体的な在り方を明らかにする
- ③ 旧杉本邸の一般公開化に向けた課題を精査する
- ④ 運営方法の検討
- ⑤ 観光施策との連動を検討する
- ⑥ 市街地施設設置の可否及び実現性を検討する

II 施設全体計画

1. (仮称)熱海文学館の基本的な考え方

本計画は、令和2年3月「基本構想」及び令和3年2月「基本計画素案」の考え方と、令和4年度の熱海文学館設立準備委員会(以下、「準備委員会」という。)での検討を踏まえ、本事業の方向性を示すものです。

令和2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響、令和3年7月伊豆山土石流災害発災後の情勢の変化に対応するため、(仮称)熱海文学館事業に対する基本計画素案に記された内容の一部を修正することが必要となりました。

本計画は、令和5年3月時点における、本事業の基本的な考え方を記すものです。

(1) 目的

杉本氏の業績を核とした熱海文学の発信拠点づくり

- ① 熱海ゆかりの文学・表現の特徴・魅力を紹介します。
- ② その中核として杉本氏の業績と作品を紹介します。
- ③ 温泉と文学・表現の関わりを紹介し、温泉文化ツーリズムの拠点とします。
- ④ 以上を通して、小説を読む・浸る楽しさ、創作の醍醐味などを共有できる場をつくります。
- ⑤ あわせて、杉本氏のメインワークである歴史小説・時代小説の楽しさを伝え、庶民の娯楽やエンターテインメントメディアへの広がりを知る場とします。

【歴史小説】

古代や中世を含み、歴史資料に基づくより実証的な小説を指すものとします。

【時代小説】

戦国時代から江戸後期を主な舞台にした小説、エンターテインメント要素が強いものを指すものとします。

(2) 施設構成

令和2年3月策定の「基本構想」から検討課題に挙げられていた、市街地施設設置の可否及び実現性について、準備委員会において検討を進めた中で、本施設にとって中心市街地からの誘導が必要不可欠であるとの認識を新たにし、以下のような提案がなされました。

- ・文学館は元来、図書館との親和性が高い施設であることから、将来的には図書館内に(仮称)熱海文学館を開設することを目指したい。

(仮称)熱海文学館は、旧杉本邸を改装する「コア施設」と、中心市街地の拠点となる施設である「ハブ施設」とで構成することが大きな特徴です。

「ハブ施設」は、「コア施設」の入り口の機能を持つと同時に、熱海ゆかりの文学、温泉文化を紹介し広げる機能を持つ市街地拠点施設と位置付けます。

準備委員会の提言を踏まえ、現時点では市街地拠点施設の候補の一つとして起雲閣の展示室を想定します。また、文学館は図書館との親和性が高い施設であることから、今後の熱海市の経済情勢にもよりますが、熱海市立図書館内に「ハブ施設」となる市街地拠点施設を置くことを検討します。

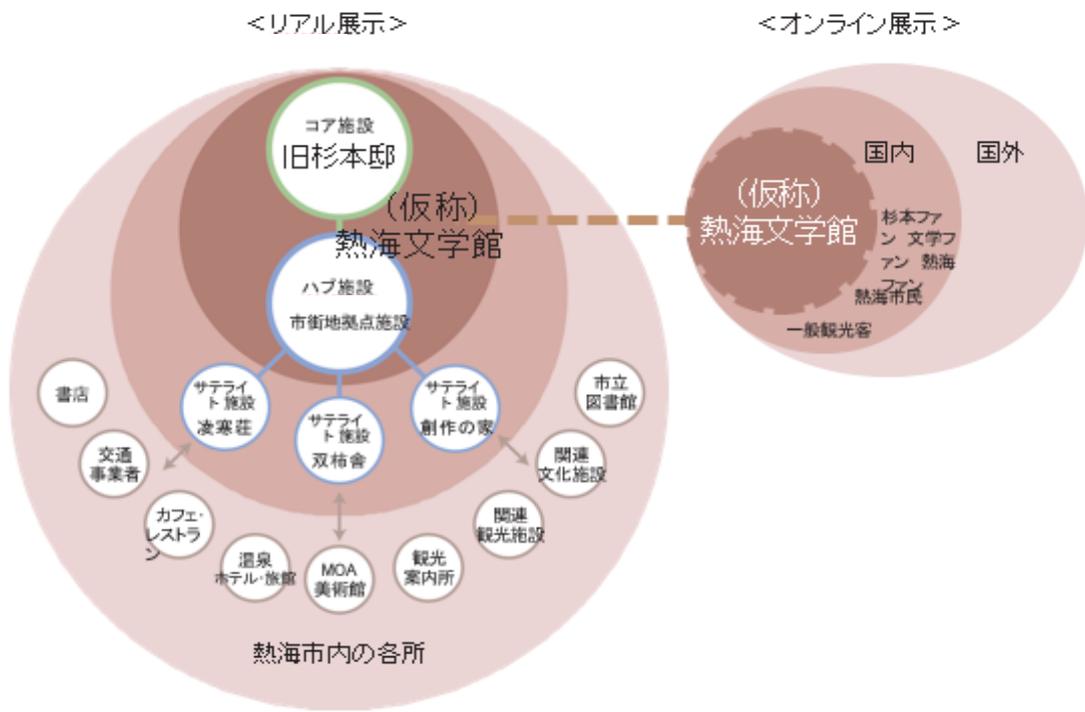
「コア施設」と「ハブ施設」を有機的につなぐことで、杉本苑子氏の文学を顕彰する一方、それだけにとどまらない、文学や文化と歴史、観光都市を結びつけた「(仮称)熱海文学館」として十分な機能を果たすものとします。

また、既存の文学関連施設を「サテライト施設」とし、3つの施設の重層的な関係により、熱海文学館としての役割を果たすものとします。

あわせて、たくさんの入り口を設ける意味で、展示室をリアル展示とオンライン展示の両軸で構成するものと設定します。新型コロナウイルス感染症対策として改めて注目されているオンライン展示室を、先行して開館します。

これらの重層的な施設の事業活動のなかで、熱海市内の文学関連スポットや観光施設との密接な関係性を築き、熱海市の文化的な発展の気運醸成を図っていくものとします。

【施設構成図】



(3) ターゲット層

本施設の来訪者は、杉本氏のメインワークであった歴史小説、時代小説のみならず、広く文学や映画・演劇に関心が高い方を中心に、熱海市民、別荘所有者、一般の観光客等を想定しています。その方々に多様な入口を設けるといことも本施設の大きな特徴となると考えます。

- 文学や映画・演劇などに関心が高い方
- 熱海市民
- 複数回熱海に来訪するヘビーリピーターや長期滞在者、別荘所有者
- 一般の観光客のうち、本施設の情報に接し興味を持った方

2. 基本方針

(1) 杉本氏の遺志を尊重した文学館

－杉本氏をはじめ熱海市ゆかりの文学と文学者を紹介し、熱海と文学の関わりの深さを伝えます

- ・平成 7(1995)年、杉本氏と熱海市が交わした遺贈契約に依拠し、著作権を含めた全ての遺産を熱海市に託した杉本氏の遺志を尊重した文学館を実現することを第一義とします。
- ・契約書の「建物を「熱海文学館(仮称)」として、熱海市にゆかりのある文学者の記念館とすることは熱海市にとってきわめて意義があることと考えており」という記述を真摯に受けとめ、現在および将来に渡って熱海市にとって意義ある施設とします。
- ・遺贈契約に基づき、杉本氏をはじめ吉川英治氏や熱海市ゆかりの文学と文学者の資料を保存し、その魅力を永続的に伝える文学館として十分な機能と体制を整えた施設とします。

(2) 多くの方々に熱海文学の魅力を伝える文学館

－旧杉本邸と市街地拠点施設を一体的な施設とすることで、熱海の文学への理解を深め、多くの来訪者を迎える施設とします

- ・リアル展示においては旧杉本邸をコア施設と位置づけ、(1)の内容を網羅した(仮称)熱海文学館として設置します。
- ・併せて、立地の課題を解消する方策の一つとして、観光資源が集中する市街地の拠点となる施設をハブ施設に位置づけ、(仮称)熱海文学館への誘導を図る展示を設け、一体的な施設運営を目指します。
- ・ハブ施設では、温泉文化がはぐくんだ、文学と関わりの深い街として熱海を紹介し、「文学と温泉のまち・熱海」をテーマとした展示を展開します。
- ・作家ごとの専門施設である「凌寒荘」、「双柿舎」、「創作の家」をサテライト施設と位置づけ、杉本氏の作品との親和性が高い「MOA 美術館」などとあわせて連携強化を図ります。
- ・オンライン展示はリアル展示に先行して開館し、オンラインの特性を活かしながら、熱海文学の魅力を伝えます。閲覧者が旧杉本邸をはじめとする熱海文学ゆかりの場所を実際に訪れたいような展示を目指します。

(3) 温泉文化ツーリズムの拠点となる文学館

ー市内各所に文学の入り口を設ける仕掛けなど、温泉文化ツーリズムの拠点づくりに取り組みます

- ・熱海と文学の関わりは市内各所にも点在し、町なかの文学ポイントに触れられることが、熱海観光の大きな資源です。現状は見えにくいそれらの文学ポイントを顕在化することにより、熱海市が目指す温泉文化ツーリズムの実現を図ります。
- ・具体的には、市街地に設ける「ハブ施設」「サテライト施設」により、熱海文学の全体像を伝えること、既存の文学関係施設との連携企画、まちなか文学スポット紹介などの検討を行います。
- ・更に連携先を熱海市全域に広げ、様々な講座やイベントの企画、ホームページや冊子など情報発信のメディアを設けることなどにより、熱海と文学の関わりとその魅力を発信し、文学の世界や読書に浸る“温泉文化ツーリズム”の拠点となることを目指します。

【温泉文化】

日本に数ある温泉地の中でも熱海温泉は歴史が古く、温暖な気候と景勝、良質な泉質に恵まれた熱海温泉は、多くの人々に愛され、発展してきました。その温泉があることによって生み出された熱海独自の歴史・文化を「温泉文化」としました。

3. 機能

(1) 保存・公開機能

－杉本苑子氏を中心に熱海市ゆかりの文学・文学者の資料を保存・展示します

- ・収集・保存した資料を体系的に分類整理し、適切な環境で保存します
- ・熱海市ゆかりの文学・文学者に関する調査研究支援を行います
- ・デジタル化等、資料の利活用の促進を検討します
- ・文学館の活動成果をリアル展示に活かすとともに、オンライン展示等で公開します

(2) 生涯学習機能

－文学を通じた市民の生涯学習に寄与する事業を行います

- ・熱海と文学そして温泉文化の魅力を多くの市民等に発信し、共有を図ることができるよう、イベントや講座等の開催を検討します
- ・市民等のサークル活動に対し、研究、発表の場を提供します
- ・子どもたちが文学に触れる機会を提供します

(3) 地域振興機能

－文学のまち・熱海を多くの人々に知ってもらいます

- ・オンライン展示等を通じて国内外に「文学のまち・熱海」をアピールします
- ・熱海文学を育んだ土壌といってもよい熱海の温泉文化を体感するまち歩きなど、温泉文化ツーリズムを促す事業を検討します
- ・市街地の施設と連携し、相互の集客力を高める方策を検討します
- ・熱海ゆかりの文学・読書に関するサービス提供を検討します

4. 事業計画

(1) 収集保存事業

資料の寄贈・受入及び収集に関しては、有識者からなる「運営協議会」等を設置し、受入・収集方針を検討するとともに、保存・展示の方法を検討します。

① 対象の作家

熱海市を代表する以下に挙げる作家、及び明治時代以降の熱海市出身作家、ゆかりの作家を対象とします。

※ ゆかりの作家とは、熱海市に長期滞在した作家、熱海市を舞台とした作品を著した作家、及び熱海市民と血縁関係のある作家をいう

尾崎紅葉／坪内逍遙／志賀直哉／谷崎潤一郎／永井荷風／川端康成／広津和郎／佐佐木信綱／吉川英治／太宰治／坂口安吾／三島由紀夫／島田一男／森村誠一／杉本苑子／池田満寿夫／中村真一郎／橋田壽賀子／押井守／町田康 他近現代文学者・表現者たち

② 収集資料

収集対象資料は以下に挙げます。

- ・作品が掲載されている図書・雑誌
- ・原稿・書簡・書画・印刷物・視聴覚資料・遺品などの特殊資料
- ・作品の映画化・演劇化などの視聴覚資料
- ・熱海が舞台となった映画・アニメ・演劇・ドラマなどの視聴覚資料
- ・参考・研究文献

③ 収集体制

収集における適正を期するため、収集すべき資料の選定を行う運営協議会を設置します。

(2) 調査研究支援事業

運営協議会の助言により収集した資料の整理などを行います。あわせて、研究者の調査研究への支援を行います。

① 資料調査

収蔵資料の整理及び未発表資料などの翻刻等を行います。

② 研究支援

研究者に対して、調査資料に基づいた研究協力を行います。

(3) 展示事業

杉本氏の創作と熱海文学の魅力を幅広い層の人々に伝える展示展開を行い、その目的に沿って最適な展開場所を設定します。

① 展示事業の方針

杉本氏の創作をその生い立ちからたどるとともに、主要なテーマである歴史小説・時代小説の世界とその魅力を伝えます。

杉本氏をはじめとする熱海にゆかりの文学・文学者とそのエピソードにより、文学のまち・熱海を紹介します。

温泉文化ツーリズムの拠点として、熱海市内に広がる文学・文化とのつながりを紹介する場とします。

文学愛好家から観光客まで幅広い層の方に興味を持ってもらえる展示展開とします。

② 展示の種類

以下の展示を設けその有機的な連携により、幅広い層に向けて杉本文学と熱海文学の魅力を発信します。

・「リアル展示」

コア施設(旧杉本邸)、ハブ施設(市街地拠点施設)での展示

・「オンライン展示」

ネット上の展示室

③ 展示解説

学術的な専門解説を踏まえながら、一般の方にもわかりやすい解説に配慮します。また、多言語の展示を検討します。

④ 留意点

リアル展示の展示展開に際しては、以下に留意します。

・直筆原稿など貴重資料は基本的に複製品を展示

- ・旧杉本邸の書斎や応接間における露出展示の盗難防止対策

(4) 交流事業

① 交流事業の方針

杉本氏の業績、熱海と文学のつながりを、関心の薄い層にも広げます。
熱海と関係の深い文学をアピールするため、市内のゆかりスポットなどの掘り起こしや、地元との関係性づくりを行います。
コア施設来訪者への憩いの場を提供します。
継続的に実施できる内容と仕組の構築を目指します。
市内サテライト施設、関連文化・観光施設との連携を検討します。

② 事業内容

- ・講座、イベント事業
 - －定期的な文学講座
 - －年に1回「文学月間」などとして、イベントの強化月間を設定するなど、本事業ならではの運営形態の検討
 - －文学スポットツアーなどの特別イベントの開催
- ・カフェ事業
 - －コア施設(旧杉本邸)来訪者の憩いの場として簡易なカフェの設置(近隣、茶舗、菓子店などとの連携も検討)
- ・文学スポット掘り起こし事業
 - －文学ゆかりの宿泊施設や店舗等のスポットを掘り起こし文学マップの作成
- ・図書館との連携事業
 - －電子図書の紹介など、オンライン上での連携やイベントの共同開催などの検討

(5) 彩苑について

現在公開中の彩苑については、老朽化にともない、コア施設(旧杉本邸)のオープンに合わせて閉館し、コア施設(旧杉本邸)に現行機能を集約させるものとします。

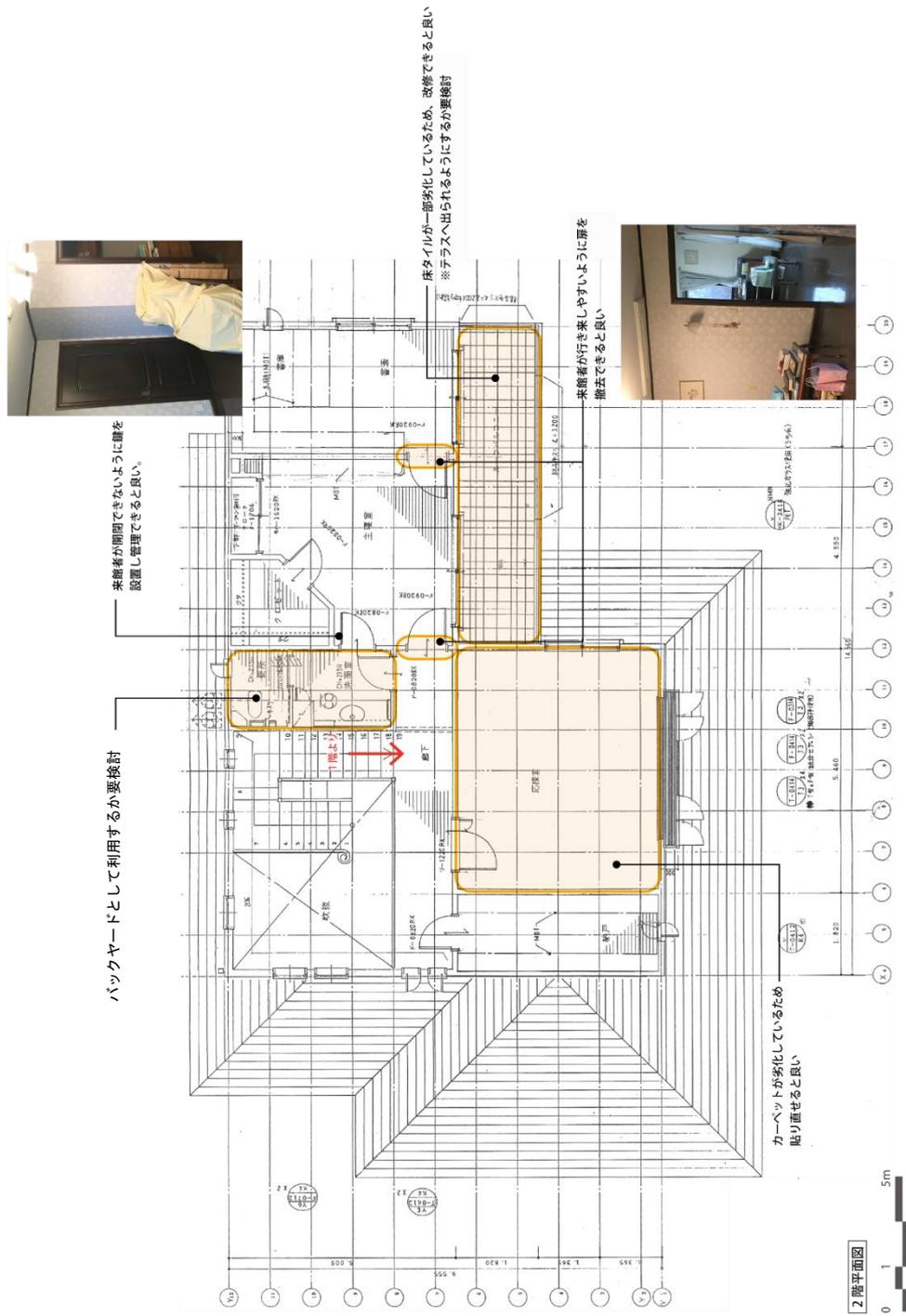
なお、(仮称)熱海文学館事業は長期にわたる設立準備が想定されています。今後の社会状況の推移や熱海市の情勢の変化によっては、彩苑の閉館時期について再度検討する必要があります。

Ⅲ 施設整備の方針

1. 施設構成



2階



3. コア施設(旧杉本邸)の改修に関して

(1) 用途変更

本施設を一般公開するにあたり、用途変更を、基準時法適合調査・用途変更申請、消防・保健所検査の手順で進めます。

(2) バリアフリー対応

現状の建築状況と市内類似施設の対応状況を検討し、バリアフリー対応は主に1階の改修と人的な対応で実施します。

現状は1階を含めて車椅子や移動に困難を伴う方の見学は困難です。その対策として、エレベーター設置などの大幅なバリアフリー改修工事について検討した結果、杉本氏が暮らしていた当時の雰囲気を損なうこと、予算的な負担が大きいことなどから、人的な対応を進めることとします。

主要な展示は1階部に設け、車椅子や2階への移動が困難な方には、スタッフによる2階展示の説明などの人的対応を行うこととします。

(3) 庭の整備について

旧杉本邸の庭は、四季折々の草花が植栽され、杉本氏が丹精込めていたことがうかがわれます。杉本氏の思いが表れており、創作の源になったとも考えられることから、杉本氏生前の庭園の状態を維持しながら、来館者に散策していただくことを視野に入れた整備の検討を行います。

【旧杉本邸の庭の様子】



(4) 改修計画について

本計画に記すコア施設(旧杉本邸)の改修計画は、令和5年3月時点のものです。具体的な改修計画については、オンライン展示開館後に改めて検討することとします。

4. 収蔵庫の設置

(仮称)熱海文学館の収蔵庫については、オンライン展示開館後に検討するものとします。

収蔵資料は収蔵量と整備環境をさらに精査し、特に重要な直筆原稿や執筆資料に関しては、保存と環境に配慮する必要があります。

また、杉本氏関係だけでなく熱海市の文学・文化に関する資料を収蔵する、本格的な収蔵環境を備えた市の収蔵庫が将来的には必要であると考えます。

(1) 収蔵資料数

現状の整理状況から、収納する棚を仮設定し収蔵空間容量を想定しました。以下の a、b を収蔵庫に収納するものとして想定します。

※1箱:A4封筒収蔵用の文書箱(520×385×260mm)

① 旧杉本邸収蔵品

- a 要保存資料(一次資料等):30 箱
- b 現状では保存すべき資料:21 箱
- c 書棚保存資料(収蔵庫への収蔵不要):17 箱
- d 不要資料(暫時処分):8 箱

② 彩苑収蔵品

- a 要保存資料(一次資料等):13 箱
- b 現状では保存すべき資料:6 箱
- c 書棚保存資料(収蔵庫への収蔵不要):30 箱
- d 不要資料(暫時処分):1 箱

IV 展示計画

1. 展示の基本的な考え方

杉本氏の業績を概観し、その創作活動の特徴・文学的位置づけを明らかにします。あわせて、熱海ゆかりの文学者・文学作品を紹介し、熱海と文学の関わりを伝えていきます。

(1) 展示の種類と内容

展示は「リアル展示」と「オンライン展示」を設け、相互の補完関係で展示を完結させます。

① リアル展示

「コア施設」展示 旧杉本邸で展開する展示です。

杉本氏の業績を伝えるとともに、暮らした環境から創作への向き合い方や人柄などを感じさせることを主目的とします。

展示展開にあたっては、大改修を伴うシアターなどの作り込んだ展示ではなく、創作現場となった旧杉本邸の環境を感じてもらうことを重視した展示手法を検討します。主に原稿や図書の資料展示とグラフィックパネル、映像装置などの展示手法を想定しています。

来館した方全員が観覧できるスペースである1Fで主要な展示を行い、2Fは副次的な展示の位置づけとして検討します。

施設環境、管理の観点から、直筆原稿や創作ノートなど貴重な資料は原則として複製品展示とします。

「ハブ施設」展示 市街地拠点施設で展開する展示です。

熱海ゆかりの文学の紹介を行い、温泉文化ツーリズムの拠点とするとともに、コア施設との連携・誘導を図る展示を設けます。

展示手法としては、図書等の資料展示とグラフィックパネル、映像装置などによる展示を想定していますが、特に市内散策を促すデジタルサイネージマップなどの設置を検討します。

② オンライン展示

リアル展示に先行し開設します。

将来開館予定であるリアル展示へ導く入口になると同時に、オンライン上でしかできない展示企画やWEB体験を設け、展示要素の1つとして計画します。SNS発信や期間限定のオンラインイベントなど、オンラインの特性を活かした運用を検討します。

オンライン展示にあたっては、まず熱海市と文学・文化の深いつながりについて紹介した上で、平成29年に逝去した作家 杉本苑子氏の生涯と作品、その文学史的意義について分かりやすく整理し、広く周知します。杉本氏が晩年暮らし、その住居を文学館とする考えに至る熱海市とのゆかりについてもあわせて発信します。

また、杉本氏以外の熱海ゆかりの作家たちを紹介しながら、熱海市内の文学散歩へ誘うような要素を含ませます。さらに観光広報サイトと連動し、熱海の温泉文化と文学の魅力を発信します。

閲覧者が、旧杉本邸を始めとする熱海文学ゆかりの場所を実際に訪れたいくなるような魅力的なオンライン展示を目指します。

企画内容としては、オンライン展示でありながら、雑誌やムックのような読物的要素を考慮しながら、以下のような構成を想定しています。

I 熱海と文学・文化の深いつながり

熱海と作家、演劇人、映画人など多くのクリエイターとの関係と歴史の概観

II 杉本苑子の作家紹介と文学史的意義の周知 「杉本苑子文学館」

1 杉本苑子と熱海

- ① 杉本苑子と熱海市のゆかり
- ② 熱海環境が杉本文学に与えた影響
- ③ 熱海に触れたエッセイの紹介
- ④ 熱海市への遺言・要望・契約

2 杉本苑子年譜

写真でたどる年譜

3 杉本苑子著作一覧

- ① 作品目録
- ② 主要作品の紹介と解説 刊行書籍の表紙写真の掲示

4 時代小説の変遷と杉本苑子

時代小説の歴史における杉本苑子の位置づけ

5 杉本苑子をとりまく人々

吉川英治、永井路子等ゆかりの人々の紹介

6 所蔵資料データベース(所蔵資料一覧)

所蔵資料の一部は表紙写真の掲示

7 主な所蔵資料

所蔵自筆原稿のうち主要作品の一部については、全ページを写真で掲示

8 旧杉本邸紹介

① 建物の外観・内観や庭園を含めた眺望を写真と動画で紹介

② 旧杉本邸庭園の価値と魅力の周知

旧杉本邸は杉本氏が晩年生活し、杉本氏の創作の源泉となった場所であり、とりわけ庭園はその植栽やしつらえから、特に杉本氏の思い入れの深い空間であったことがうかがわれる。庭園の魅力を解説する動画を発信する。

【想定コラム例】

- ・著名な方の杉本苑子論
- ・歴史小説、時代小説の世界をWEBの中で体験
- ・作品朗読、作品あらすじ劇場
- ・杉本先生いきつけの熱海紹介
- ・登場人物の部屋(登場人物たちが語る作品)
- ・杉本先生の猫愛
- ・毎日ひとつ杉本語録
- ・マニアたちの掲示板

III 熱海ゆかりの表現者達と「文学のまち・熱海」の周知 「熱海文学散歩館」

1 熱海文学史

紅葉、逍遙をはじめとする明治時代以降の熱海ゆかりの作家とその作品の紹介

2 熱海ゆかりの現代作家達

熱海に仕事場を構える作家のインタビュー等の掲示

3 映画・アニメ・演劇・ドラマから見た熱海

熱海を舞台に展開されたさまざまな物語を、文学だけでなく広い表現のなかから拾い上げ、そこに映し出された「熱海」を紹介する

4 熱海文学散歩

観光地図情報と連動した文学散歩の提案

【想定コラム例】

- ・バーチャルまち歩き
- ・今日の熱海本
- ・熱海の人のおすすめ本

- ・文学ごはん、文学スイーツ
- ・熱海の文学風景投稿サイト

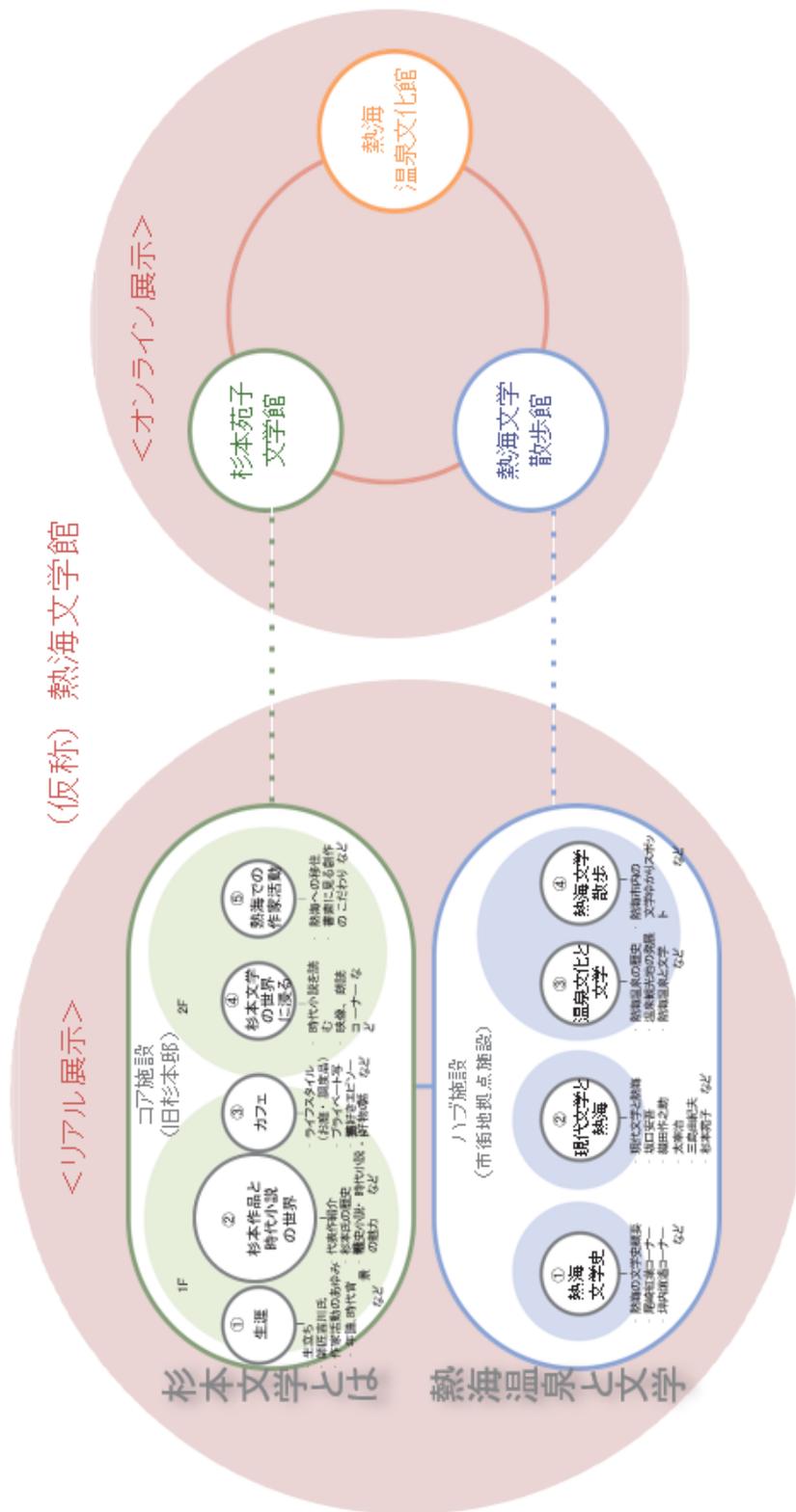
IV 熱海の温泉文化の魅力の発信 「熱海温泉文化館」

- 1 熱海温泉の歴史と文化
- 2 熱海市立図書館と熱海温泉誌の紹介
図書館ホームページとの連携
- 3 熱海温泉の広報
観光協会ホームページとの連携

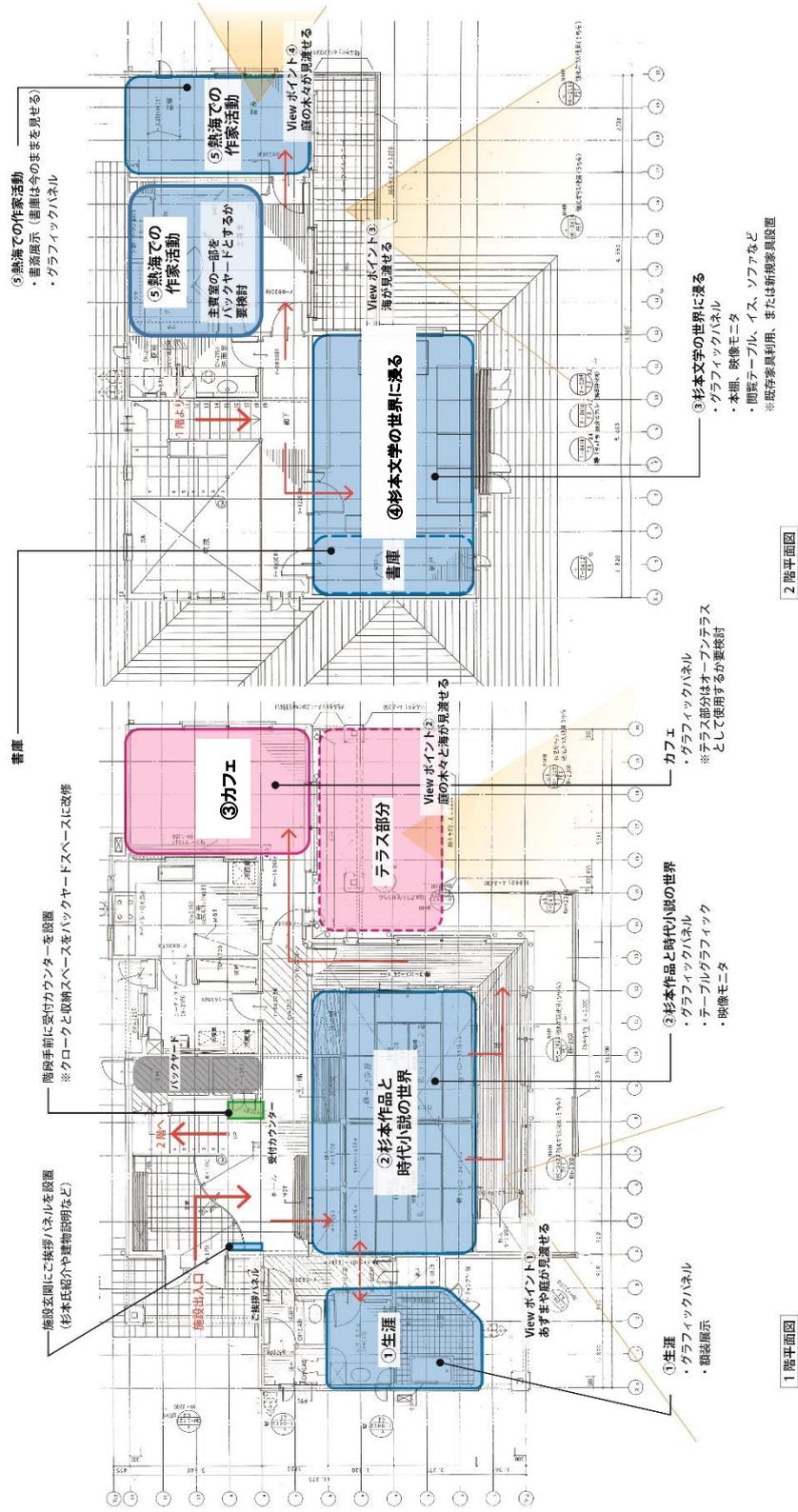
【想定コラム例】

- ・熱海温泉マイスターのおすすめ湯
- ・今日の熱海温泉(SNS)
- ・源泉探検YouTube
- ・熱海芸妓さんのいきつけ温泉

2. 展示ストーリー及び展示構成



3. 諸室利用計画とゾーニング



1階平面図

2階平面図

※Viewポイントの設定

旧杉本邸は星降らしが良く、眺望を意識した展示を行います。

来館者が散策することを視野に入れた整備を検討します。

また、庭園も丹精込めて手入れしていたことがうかがわれます。

杉本氏前の庭園の状態を維持しながら庭園が散策用に整備された場合は、そのViewポイントも検討します。

V 管理運営計画(案)

1. 基本方針

(1) 管理運営形態

オンライン展示は熱海市ホームページから独立した(仮称)熱海文学館ホームページとして構築し、市直営で市職員による定期的な更新を図ることを目指します。

リアル展示施設開館時は市直営を想定し、開館中は管理スタッフを常駐させます。将来的に、観光施設との連動、民間企業等との連携を意識したうえで、他の公営文化施設との包括的指定管理制度へ加えていくことを目指します。

(仮称)熱海文学館事業は長期にわたる設立準備及び管理運営が想定されています。今後の社会状況の推移や熱海市の情勢の変化によっては、再度検討する必要があると考えます。

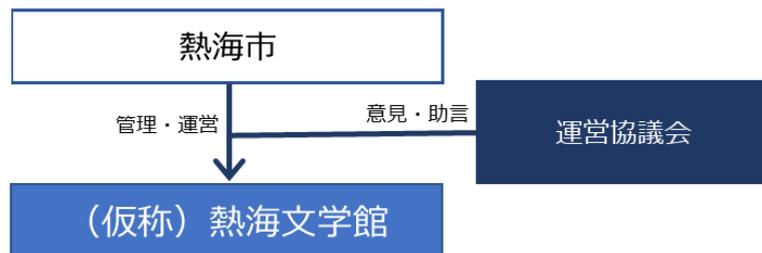
(2) 開館形態

オンライン展示は、年中無休、24時間閲覧可能で、主な展示については原則として利用料金を無料とします。

リアル展示は、施設の立地、規模等を踏まえ、旧杉本邸、市街地拠点施設の開館日・時間・利用料金などを検討します。

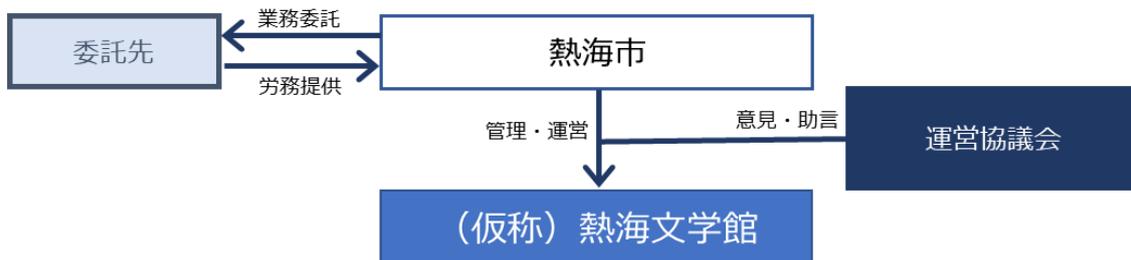
2. 管理運営体制

(1) オンライン展示



※「運営協議会」を設置し、研究部門の不足を補う

(2) リアル展示



※「運営協議会」を設置し、研究部門の不足を補う

VI 事業スケジュール

令和5年3月現在

	年度 月	2022(R4)				2023(R5)年度				2024(R6)年度				2025(R7)年度				2026(R8)年度				2027(R9)年度										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4			
基本計画		基本計画																														
オンライン 文学館						資料収集・研究業務																										
										1 ページ				制作業務																		
リアル 文学館 (コア施設) (ハブ施設)																										改修について 検討・着手						

資料編

熱海文学館設立準備委員会 委員名簿

有識者委員

委員長 紅野 謙介（日本大学文理学部長）
 副委員長 原 祐子（元日本近代文学館職員）
 内川 隆志（國學院大学教授）
 塩見 寛（名城大学理工学部講師）
 矢代 勝也（MOA 美術館学芸部長）

一般委員

杉山 勝（熱海商工会議所専務理事）
 井戸 真弓（熱海市観光協会職員）

熱海文学館設立準備委員会 開催経過

回数	日程	会場	主な検討内容
第4回	令和2年7月27日	熱海市役所 第三庁舎会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の考え方、テーマ構成 ・ゾーニング・動線 ・展示手法事例 ・杉本氏の業績と作品研究 ・資料の収集方針 ・事業内容案 ・内装デザイン視点による建築改修想定個所 ・バリアフリー人的対応事例 ・バックヤード想定個所 ・収蔵場所 ・施設運営形態の方向性
有識者委員 個別ヒアリング	令和2年11月18日	乃村工藝社 会議室	内川委員 ・施設方向性検討 原委員 ・施設方向性検討
	令和2年11月30日	熱海市役所 教育委員会室	塩見委員 ・施設方向性検討 矢代委員 ・施設方向性検討 紅野委員長 ・施設方向性検討 ・基本計画書素案（案）検討
—	令和3年1月18日	オンライン会議	委員長によるオンライン講座 「杉本苑子の文学とその歴史的意義」
第5回	令和3年2月1日	オンライン会議	・基本計画書素案（案）の検討

第6回	令和4年7月1日	熱海市役所 教育委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)熱海文学館設立準備に係る熱海市の方針の説明 ・オンライン文学館について ・基本計画について
第7回	令和4年9月14日	熱海市役所 教育委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画(案)の検討
第8回	令和4年12月19日	熱海市役所 教育委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画(案)の検討

熱海市内文化施設 運営形態

本施設の運営形態を検討するため、市内の運営形態をまとめました。

令和5年3月現在

No	名称	開館年	運営形態	管理者	備考
1	起雲閣	平成12年	指定管理 料金収受代行制	NPO法人 あたま オアシス21	平成23年度まで直営。 平成24年度から指定管理。指定期間5年間。現在は第3期(H30～R4年度)
2	澤田政廣記念美術館	昭和62年	会計年度任用職員による直営	熱海市	
3	伊豆山郷土資料館	昭和56年	会計年度任用職員による直営	熱海市	展示資料のほとんどを伊豆山神社他から有償で借用している
4	創作の家	平成17年	会計年度任用職員による直営	熱海市	展示資料のほとんどをM&Y事務所（故佐藤陽子氏）から有償で借用している
5	旧日向別邸	平成17年	会計年度任用職員による直営	熱海市	
6	池田満寿夫記念館	平成19年	会計年度任用職員による直営	熱海市	展示資料のほとんどをM&Y事務所（故佐藤陽子氏）から有償で借用している
7	中山晋平記念館	平成3年	シルバー人材センターへの委託による直営	熱海市	
8	彩苑	平成8年	シルバー人材センターへの委託による直営	熱海市	
9	凌寒荘	平成16年	シルバー人材センターへの委託による直営	熱海市	
10	双柿舎	平成19年	民営	早稲田大学	早稲田大学所有。開館にかかる人件費の一部を熱海市から謝礼として支出

※No.1、2、3、4、6、9については、令和5～9年度まで指定管理で運営

熱海市内文化施設 バリアフリー人の対応事例

本施設のバリアフリー対応を検討するため、

市内の類似施設の対応状況をまとめました。

「基本構想」では、右のように記載しています。

b. バリアフリー対策 現状は1階を含めて車椅子や移動に困難を伴う方の見学は困難である。エレベーター増築ができるとすれば屋外で、敷地面積的に不可能ではないが、杉本氏が暮らしていた当時の雰囲気損なうことと、予算的な負担が大きいことなどから、前提としては、エレベーター設置ではなく、玄関までのスロープ設置と人的な対応で検討を進めることとする。また、主要な展示は1階部に設け、2階は副次的な位置づけとした展示構成を検討する。

令和5年3月現在

No.	名称	建築年・構造	バリアフリーのための人的対応	備考
1	起雲閣	昭和55年 SRC 2階建 ★市指定文化財建物 大正8年 昭和4年 昭和7年	車椅子で低い段差を乗り越える際には、職員が援助する。	土足不可。スロープ・エレベーターは設置されているが、低い段差が残る完全なバリアフリーではない。和館2階（大鳳）等の見学は自力で階段昇降可能な人のみ。和館2棟、洋館2棟、表門（正門）は市指定文化財。「文豪」・「尾崎紅葉」・「坪内逍遙」の間がある棟は文化財指定対象外。
2	澤田政廣記念美術館	昭和62年 RC 2階建	特になし	1階は車椅子可。2階は車椅子不可。
3	伊豆山郷土資料館	昭和54年 RC 1階建	特になし	土足不可、スリッパへ履き替え必要。段差あり、展示室狭小のため車椅子不可。下足入館を検討中。
4	創作の家	昭和48年 W 地上2階地下1階建	特になし	元個人住宅。土足不可、スリッパへ履き替え必要。入館までに外階段あり。狭小のため車椅子不可。
5	旧日向別邸	昭和9年 RC 地下1階建（地下室） W 2階建（上屋）	特になし	元個人住宅。原則として、自力で階段昇降可能な人を見学者とする。土足不可、スリッパへ履き替え必要。国指定重要文化財。
6	池田満寿夫記念館	平成2年 S 2階建	特になし	池田氏が自身の作品の公開を意図し、アトリエに隣接して建設。土足不可、スリッパへ履き替え必要。
7	中山晋平記念館	平成3年 W 2階建	特になし	元個人住宅を移築。土足不可。
8	彩苑	昭和52年 W 2階建	特になし	元個人住宅。土足不可。
9	凌寒荘	昭和12年 W 2階建	特になし	元個人住宅。土足不可。邸内見学不可。庭園散策のみ。坂地のため庭園は段差あり。
10	双柿舎	大正9年 W 2階建	特になし	早稲田大学所有。元個人住宅。邸内見学不可。庭園散策のみ。坂地のため庭園は段差あり。

W：木造 RC：鉄筋コンクリート造 SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造